

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

業所番号	3371000203		
法人名	有限会社 げんき		
業所名	グループホーム げんき		
所在地	岡山県新見市下熊谷1554-2		
評価作成日	令和1年10月10日	評価結果	市町村受

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

情報リンク先	
--------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利法人 津高生活支援センター		
所在地	岡山市北区松尾209-1		
調査日	令和元年11月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・ご利用者様が安心して過ごして頂ける様に家庭的な環境作りと職員との信頼関係の構築に努めています。 ・季節に応じた外出支援や嗜好調査に基づいた献立等ご利用者様のQOLの向上に努めています。 ・経営者が生産した米を提供し、食事は全食手作りの物を召し上がって頂ける様に心がけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>県北の過疎化の進んだ地域で以前2ユニットでの運営でしたが、現在は1ユニットとなり、管理者・リーダーを中心に職員が楽しく仕事に取り組み入居者本位の支援が行われています。共に暮らす視点から構築された取り組みが窺えるグループホームです。運営面で地域連携、行政共に協力関係にあり、又、職員教育への取り組み多方面の研修参加と内部研修によるレベルアップを図りサービスの値の向上に努めています。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・当ホームの地域における役割り。それに基づく職員の役割り・認識を月1回の職員会議・毎朝のミーティング等で話し、実践につなげている。	職員の勤務年数も長く、職員全員が理念を理解しケアを行っています。管理者は日々の業務が理念に添えているのか確認し、業務に理念が活かせるように努力しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・地元大学看護科の学生実習受け入れを年間通じて行っている。又、地元の子供さんとその父兄の方々とで花植え等の活動で交流をしている。	事業所が開設してから15年、年月経過とともに地域との連携も形は変化しているが連携されています。季節ごとの節目の行事に参加したり、事業所で開催する夏祭りに地域の方の参加があるなど、地域に根付いた事業所となっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・新見公立大学学生の認知症ケアについての実習の受け入れを行なっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・ひと月おきに運営推進会議を行っており、行政からの報告・指導。家族の意見を聞き、日々の生活支援に活かしている。	年に6回は開催されています。行政、地域、家族そして入居者も参加した運営推進会議を開催されています。	多数の方が参加した運営推進会議を開催されていますが、一般職員も参加できるように工夫されることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・常に連絡・相談・報告をさせて頂いている。又、指導もいただいている。	運営推進会議にも毎回参加があり、色々な意見交換が行えています。業務中に何かあれば、その都度連絡をとり、相談できる関係です。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・身体拘束についての研修を行なっている。 ・当ホームでは拘束はしていない。	外部研修にも参加し、研修で得た情報を事業所内研修に活かしています。声掛けにも注意をしながら適切な対応と支援に取り組んでいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・虐待についての研修を行なっている。 ・当ホームにおいて、身体的・又は、言動的な虐待に及ぶ事はない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・人としての権利・後見制度についての研修を行なっているが、当ホームとしてそれを活用するには至っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・常日頃より、ご家族の方との連絡を密に行なうようにしている。 ・説明と承諾を頂くよう心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・年2回程度の家族会を開き、加えて行事の際等機会のある時にご意見を頂くようにしている。又、苦情窓口を設けている。	運営推進会議、季節行事、面会などホームに来られた時などにゆっくりとお話し、運営に関する意見を頂き反映されています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・職員会議・ミーティング等、あらゆる機会を通じ職員の意見を聞き、活かすべきは活かしている。	色々な勤務スタイルで、従事している職員全員集まることがなかなか難しい面もあるようですが、管理者・リーダーを中心にスタッフの意見を受け止めケアに活かせるように努力しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・職員個々の得意分野・又は能力に応じ、業務内容の配分を心がけ、ストレスの軽減に努めている。勤務希望に応じ無理のない勤務状況としている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・施設内・外の研修にはできるだけ参加させている。資格取得に関しても施設として、できるだけ配慮をしている。最近では、施設内研修とし、講師の方へ来て頂き、職員のレベルアップに努めている。種々の研修会・会議に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・施設見学・病院・ケアマネージャー間の、交流等でネットワークを保ち、情報交換又は情報を頂き、施設のレベルアップにつなげている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・ご家族・当ホーム入居前のケアマネジャー担当の方に情報を頂き、ご本人の心身の不安の軽減に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・ご家族の思いをお聞きし、そのお気持ちに添えるような生活支援が出来るよう、努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・各、居宅介護支援事業所のケアマネジャー・病院・老人保健施設等の担当者との情報交換をしている。その上で、ご家族に必要な情報提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・家庭的な雰囲気作り、本人との信頼関係の構築の工夫に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・ご家族の生活状況・不安、ご本人の思い・不安等を聞かせて頂き、当ホームがご本人とご家族とより良い関係が保たれるようパイプ役となるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・生活歴・趣味などをお尋ねし、当ホームへ持って来られる物は持って来て頂き、思い出の地には、外出支援としてお連れしている。又、面会にも日頃より、頻繁に来て頂いている。	職員の勤務年数も長く、ホームでの職員と入居者の新たな馴染みの関係が作られています。併設されているデイサービスでの合同行事などでも地域の方と馴染みの関係が構築できています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・職員ではできないメンタルケアを、ご利用者同志で助けて頂いている事は良くある。ご利用者同士の関係性の構築の為のサポートにも努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・外出・外泊は自由で面会時間自由、いつでも誰でも来所して下さりやすい雰囲気作りに努めている。又、状況に合わせた相談は、随時受けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・嗜好、意向の調査行い、可能な範囲で提供しご利用者のQOLの向上への支援を行っている。	その時は入居者にとっての幸せが何かを見つめ直し、家族と話し合いながら日々のケアに努めています。食事に関して月1回の嗜好調査を行ない、メニュー作成に活かしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・生活歴や習慣等の情報を密に取り入れ、それに近い状況での生活支援に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・ご利用者個々に適切な支援が行えるよう、常に状態の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・時々状況に応じてご家族と話し合い、その思いに添った生活支援プログラムを立てている。	入居前の生活習慣や生活リズムを崩さないように、その人らしい生活を送って頂き、スタッフのミーティングで個々の入居者のニーズをとらえプランを作成しています。細やかな対応ができる様に入居者ごとに担当が決まっています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・定時の記録を行い、ミーティング及び、常時意見交換を行い、個々のケア内容に活用。又、定期的に見直しを行なっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・他施設・病院との連携を密に行い協力頂き、その時々ニーズにスムーズに対応できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・地域資源の把握、活用を行い、安全で豊かな生活の維持に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・随時行なっている。	在宅時のかかりつけ医への受診を継続して支援しています。往診は歯科のみです。医療機関とは円滑に連携がとれるように関係作りに努めています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・当ホームに、看護師が居り、必要時に情報交換・意見交換を行なって、適切な判断により、受診時医師に、正確な情報提供が出来るようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・常日頃より病院の関係者の方との関わり、情報交換・指導を頂いている。 ・新見医療連携情報共有書も活用している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・かかりつけ主治医・ご家族と十分協議している。双方に納得がいくよう、ターミナルケアについては話をしている。	重度化にも可能な限り対応しています。家族と相談しスタッフで話し合い、入居者に最善の方法を模索しながら支援に取り組んでいます。職員に重度化・看取りに関する研修も実施しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・施設内・外の研修に参加させている。又、随時に行なっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・定期的な避難訓練の実施。又地元の消防団にも有事の時には協力体制をとってもらっている。 ・災害時対応マニュアルの作成。	ハザードマップを参考に災害対策を検討しています。消防署とも連携をしながら訓練をしています。	今後も様々な災害が想定されると思うので、現状から更に踏む込んだ避難対策、避難生活の対策に取り組まれることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・個々の生活歴や性格を尊重し、適切な対応・言葉かけをしている。 ・施設内で人権尊重、権利擁護の研修を行っている。	その時々の入居者の心情に合わせ親しみを持った声掛け、対応に心掛け入居者が穏やかに過ごせるように努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・ご自分でお決めになれる範囲の事については常にお尋ねし、尊重できるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・日々の生活の中で随時気持ちの変化に添うようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・衣服の選択等本人の希望を尊重、身だしなみの支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・季節感を感じられる献立を工夫している。 ・QOLの向上を図り、時々ではあるが簡単な調理に参加して頂いている。 ・毎月嗜好調査を行い、ご本人の希望される物を提供出来るように努めている。	地域の食材を大切に家庭的な献立が考えられています。入居者の重度化により、刻み食やトロミ食にも対応しています。食事を摂る時間を幸せに感じて、大切な時間を過ごしていただけるように努めています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・食事内容、食事形態に個々に合わせた工夫を行っている。 ・摂取量のチェックも行なっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・毎食後、ご自分でできる方はして頂き、声掛け・介助と区別し、夜間は義歯洗浄し、清潔を保っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・排泄チェック表により、排泄の声かけ・介助を行っている。	入居者と職員の自立認識の違いもあり、それぞれの残存機能を大切にされた対応で個々に合わせた排泄支援に努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・身体を動かす運動を多く取り入れ、食事の副食・おやつ等に工夫をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	・週2回の入浴を実施している。 ・本人の入浴したい時間、したくない時は日時を変更する等で対応している。	出来るだけ手を出しすぎないケアを心掛けその人にあつた支援をしています。入浴を嫌がられる方には無理な入浴は避け、一人ひとりに合わせたアプローチの工夫を重ね、快適な入浴が出来る様に努めています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・個室にはいつでも休んでいただけるよう、環境を整えている。その人の居室らしさも工夫している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・受診時に必ず、内服薬の説明書を頂き、個人ファイルにつづり、職員がいつでも閲覧できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・レクリエーション、軽作業の中に取り入れている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・季節ごとの行事・ドライブ・外食・見学等に随時出かけている。本人の希望は常に聞いている。	通院も良い外出機会と捉え職員が対応しています。天候、体調に合わせて近隣の散歩や、施設の外に出て気分転換を行っています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・ご本人にお金を持って頂くことはしていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・随時電話でのやりとりは行っており、ご利用者の心身の安定につながっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・共有空間には季節を感じる事ができるような掲示物や飾りを行い、居心地よく過ごせるよう工夫を行っている。	季節の行事の写真、実習生が作成した作品が飾られ温かい雰囲気のある空間になっています。トイレの場所もフロアから少し奥にあり、プライバシーが確保された作りで、尊厳を大切に暮らした暮らしに繋がる工夫が窺えます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・食卓は個人の決められた場所。居間では、その時仲間が隣同志に座り、会話が行われている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・ご家庭より持って来て頂いた物を置きやすくしている。	日当たりがよく、清潔も保たれており、心地よく過ごせる部屋になっています。入居者が過ごしやすいように家具も配置されています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・手摺を多く設置し、自力で移動・行動できやすくしている。建物はオール電化、段差無しで安全の確保に努めている。		